

【事例 4】 茨城県自然博物館におけるイベントの開催

実施年度	平成 13 年度	連携・協働形態	その他（展示協力）												
事業内容	当館で実施した、第 22 回企画展「SATOYAMA - 人と自然のコミュニティスペース “里山”」において展示協力をさせていただくとともに、イベントに参加していただいた。 （平成 13 年度） NPO 法人自然生クラブ NPO 法人つくば環境フォーラム（先 2 団体を含め 29 団体）														
連携・協働の範囲	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計 画</th> <th>実 施</th> <th>実施後の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行 政</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>N P O</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				計 画	実 施	実施後の評価	行 政				N P O			
	計 画	実 施	実施後の評価												
行 政															
N P O															

（行政）

茨城県	教育委員会	担当課	文化課	電話	029-301-5442
-----	-------	-----	-----	----	--------------

連携・協働事業を行ったきっかけ （発意者：行政）

里山活動とその意義を来館者に知らせるために、実際に里山活動を実施している団体に協力を依頼し、パネル（団体やその活動の紹介）や活動による成果品（炭、工芸品、会報誌等）を展示していただいた。

役割分担

N P O 側：展示物の搬入、搬出、展示物列品、展示解説

行 政 側：展示ブース提供、展示物の保守

連携・協働によるメリット等（事業成果）

里山活動を多くの人々に知っていただきたいという点で両者の思惑がうまく合致しており、効果的な展示とすることができた。

連携・協働する上で配慮した点

特になし

（協働相手の N P O）

団体名	N P O 法人 自然生クラブ	電話	029-866-2192
住所	〒300-4211 つくば市臼井 1643		

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:NPO)

1988年、自然生クラブがホスト役として、イギリス・ドイツ・デンマークノ3ヶ国4団体を招き、「つくば国際知的障害者演劇祭」を、実行委員会と市が共催。翌年より「みんなのコンサート」として、つくば市主催とし、ステージ発表を継続。2001年よりアート部門(ギャラリー)を加えて、「チャレンジアートフェスティバル in つくば」に発展し、現在に至る。

表現活動を通して、障害者の生活の質の向上をはかり、ノーマライゼーションをするめることを目的とする。行政・NPO・福祉施設・福祉団体とボランティアが、協働することで福祉活動の市民への広がりを生んだ。

連携・協働によるメリット等(事業成果)

フェスティバルを実行委員会とつくば市が共催。市民団体・福祉施設・NPO法人・学校(技術短大)・ボランティア・行政が実行委員として参加することで、障害者福祉への共通認識が生まれてきた。また、事業の質の向上と市民への広がりがある。

連携・協働する上で配慮した点

障害者本人が主体の事業であるという、ねらいからずれないようにすること。

課題と対応

障害者アートについての考え方の違いを認識すること。多様性を認めること。

連携・協働の今後の展望

連携・協働の多様なあり方を探っていくこと。継続していくための組織作り。